

この練習は、四分音符60が基本になる速度で非常に自由に行なわれるべきである。一回目の演奏で気づいたことを修正し、矯正しながら各グループを二度くりかえすこと。もし必要なら三回目の練習を始めてもよいが、練習の最後に疲れてしまわないように無理に行なわないこと。

こまかいことであるが非常に重要なことは、長い音が美しく思えるたびに、それをまた同じように響かせるためにすばやく息をとり、同じ音色で次の音を得るように努めることである。



表情のある呼吸 明るい、良く連結された音

この練習の開始をやさしくするためにニュアンスは自由“ad libitum”にすること。それからもっとむずかしいと思われるニュアンスをさがすこと。参考としては *mf* で始め、低いDoまでしだいに下降すること。

1

これらの最後の練習は長いので、速度を四分音符130から150へとしだいに近づけながら練習すること。